

森研第54号
平成22年6月18日

関係各位

岐阜県森林研究所長

岐阜県森林研究所研究成果発表会（平成22年度第1回）の開催について

日頃は、当所の試験研究業務にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当所では、下記のとおり研究成果発表会を開催します。つきましては、多くの方に参加いただくとともに、関係者へお知らせいただきますようにご案内申し上げます。

なお、参加を希望される場合は、下記参加申込書により平成22年7月9日（金）までに報告をお願いします。

記

1. 開催日時および場所

日時：平成22年7月23日（金）13:30～16:00（開場13:00）

場所：中濃総合庁舎5階大会議室（岐阜県美濃市生櫛1612-2 電話：0575-33-4011）

2. プログラム（時間は変更になることがあります）

13:30 開会

13:30～13:40 あいさつ

13:40～14:05 「ムキタケ栽培の紹介」 久田善純

ムキタケというキノコについて、間伐後の林床を利用した原木栽培の方法、及び、菌床シイタケ用の施設を利用した菌床栽培の方法をご紹介します。菌床栽培で効率よくムキタケを収穫するためには、芽数の調整が重要であることが分かりました。

14:05～14:30 「ハタケシメジの野外栽培」 水谷和人

ハタケシメジは大変おいしいキノコですが、栽培が難しいために生産量は限られています。そこで、当研究所が所有する9種の野生株を使用して菌床を作成し、野外に埋設して野外栽培を行いました。結果、野生株の中には市販菌床の発生量に匹敵するものがありました。

14:30～14:40 休憩

14:40～15:05 「作業路からの土砂流出抑制手法の検討」 臼田寿生

ヒノキ及びスギの枝条で路面を被覆した試験区を設置し、路面を移動する土砂の重量を観測しました。ヒノキ枝条で路面の1/3を被覆した場合の移動土砂重量は、被覆をしない場合と比較して半分以下でした。この結果から、枝条による路面被覆は作業路からの土砂流出を抑制する手法として有効である可能性が示されました。

15:05～15:30 「林地残材を効率的に収集する作業車両を開発しました」 古川邦明

木質資源のバイオマス利用への取り組みが拡大する中、利用されず林内に残されている間伐材等（林地残材）の有効利用に向け、森林総合研究所や大学、メーカーと共同で作業道沿いの残材を効率的に収集・運搬する作業車両を開発しました。

15:30～15:55 「線虫を利用したカシノナガキクイムシの防除」 大橋章博

昆虫に寄生する線虫を使ってカシノナガキクイムシの駆除を試みました。被害木の中に線虫を注入し、そこから脱出してくる虫を回収しました。カシノナガキクイムシの発生数は、何もしなかった場合の10%以下になりました。この結果から、線虫はカシノナガキクイムシの防除資材として有望であると考えられました。

16:00 閉会

3. 定員： 150人（参加無料）

4. 参加申込期限： 平成22年7月9日（火）

5. 申し込み、問い合わせ先：

岐阜県森林研究所（〒501-3714美濃市曾代1128-1） 渡邊仁志、水谷嘉宏

電話： 0575-33-2585

FAX： 0575-33-2584

メール： nabe@forest.rd.pref.gifu.jp

岐阜県森林研究所研究成果発表会（平成22年度第1回）
参加申込書

機関名 _____

担当者名 _____

電話番号 _____

所属（部課名等）	氏名

参加者名簿の送付は、FAX、メール、葉書のいずれかでお願いします。
メールまたは葉書の場合、本様式によらず送付していただいても結構です。

FAX：0575-33-2584